三重大学高等教育研究論文タイトル†  
－論文副タイトル－

三重大 学\*・大学 みえ\*2

三重大学○○学部\*・津大学高等教育センター\*2

これは三重大学高等教育研究に投稿する論文のテンプレートです．ここには要旨を入力します．論文の場合は400字以内で入力してください．詳しくは，下記2.7の要旨の項を参照のこと．・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

キーワード：○○○○，××××，△△△△，□□□□，○○○○

1. はじめに

これは三重大学高等教育研究の論文および研究資料のテンプレートです．記述の際は，このテンプレートを使用するか，このテンプレートの形式スタイルに従って記述してください．

1. 執筆要項について
   1. 原稿とページについて

原稿はA4サイズとし，Microsoft Wordなどの文書作成ソフトで作成し，編集委員会に電子ファイルを提出する．高等教育研究の構成は，論文と研究資料およびその他とする．原稿の長さは，和文の場合，本文が1ページあたり24字×46行，横2段組とする．欧文の場合，段組なしでも可とするが，1ページあたり46行とする．

論文は，刷り上がりA4サイズ6～12ページ程度（表題，用紙，図表，写真等全てに含む）とする．研究資料の原稿作成方法については論文に準じるものとし，刷り上がりA4サイズ12ページ以内とする．その他については，論文・研究資料の他に寄稿論文などは編集委員会の判断によって掲載する．

* 1. 文章表現

原稿は，原則として横書きとし，常用漢字・現代かなづかいを用いる．

* 1. 句読点

句読点は，全角「，」（カンマ）と「．」（ピリオド）を用いる．

* 1. フォント

フォントサイズは見出しを10.5ポイント，本文を10.5～10ポイントとする．その他タイトル等はテンプレートを参照のこと．文章中，部分的に表現を変更したい場合（例　話者のセリフなど），ポイントサイズを下げるのではなく，フォントの種類を変更するなどで表現すること．

* 1. ヘッダーとフッター

ヘッダーとフッター部分については，採択後に編集委員会が入力するので，編集する必要はない．

* 1. 原稿の冒頭

原稿の冒頭には，題名，著者名，所属機関を入れる．題名は，論文等の内容が明確に分かるようにし，「第○報」等は含めない．また，論文の末尾に，著者名，題名，所属機関および所在地を英語で入力する．

* 1. 要旨 （SUMMARY）

論文の場合は，400語以内の要旨とその英訳SUMMARYを付ける（英訳SUMMARYは文末につける）．

* 1. キーワード

論文の場合は，5～6語の和文および英文のキーワードを付ける．

* 1. 本文

「はじめに／序論」，「本文内容」，「まとめ／結論」の順に記述することが望ましい．

* 1. 謝辞

謝辞はまとめ／結論の後に記述する．このテンプレートを参照のこと．

* 1. 注

注が必要な場合，論文の最後，参考文献の前に一括して入れ1)，本文中の該当箇所の右肩に１），２）のように示す2)．このテンプレートを参照のこと3)．

* 1. 外国語

固有名詞以外の外国語は，できる限り訳語を用い，必要な部分は初出の際のみ原綴を付する．

1. 参考文献

本文中での参考文献の引用は，次のようにする．

　　(例) YAMAMOTO(2016a)は………

　　　　　SUZUKI（2016）は………

　　　　　………と述べている (YAMAMOTO 2016b)．

　　　　　………と述べている（鈴木 2008）．

なお，著者人数によって，下記のような表記とする．

単著の場合，(山本 2016)および(YAMAMOTO 2016)

二名の著者の場合，(山本・鈴木 2016)および(YAMAMOTO and SUZUKI 2016)

三名以上の著者の場合，(山本ほか 2016)および(YAMAMOTO et al. 2016)

* 1. 参考文献の書き方
     1. 単行本の場合

順番に，著者名，発行年，書名(二重カギ括弧)，発行所

（例）

松下佳代 (2015)『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房.

順番に，著者名，発行年，書名(イタリック体)，発行所(発行地)

（例）

Barkley, E. F. (2010). *Student engagement techniques: A handbook for college professors*. San Francisco, CA: Jossey-Bass.

* + 1. 雑誌論文の場合

順番に，著者名，発行年，論文題目(一重カギ括弧)，雑誌名(二重カギ括弧)，巻(号)数，掲載ページ．なお，複数の和文著者名は「・」でつなぐ．

（例）

山本俊彦・三谷千尋 (2004)「子どもの学びを大切にした小学校体育授業における一考察」『三重大学教育学部附属教育実践総合センター紀要』24，155-164.

順番に，著者名，発行年，論文題目，雑誌名(イタリック体)，巻(号)数(巻数はイタリック体)，掲載ページ

（例）

Barr, R. B., & Tagg, J. (1995). From teaching to learning: A new paradigm for undergraduate education. *Change, 27(6)*, 12-25.

* + 1. 翻訳書の場合

順番に，原著者名，発行年，書名(イタリック体)，発行所(発行地)，原著者名(カナ名)，訳者名，翻訳書発行年，翻訳書名，翻訳書の発行所

（例）

Barbara J Duch et al.(2001).*THE POWER OF PLOBLEM－BASED LEARNING A Practical “How To” for Teaching Undergraduate Courses in Any Discipline*, Stylus Publishing. ダッチ・B・Jほか(三重大学高等教育創造開発センター訳)(2016)『学生が変わる　プロブレム・ベースド・ラーニング実践法 学びを深めるアクティブ・ラーニングがキャンパスを変える』日本.

* + 1. インターネットからの引用の場合

順番に，著者名，ページのタイトル，URL，引用者の最新アクセス日

（例）

中央教育審議会 (2012)『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて－生涯学び続け，主体的に考える力を育成する大学へ－(答申)』(http://www.mext.go.jp/b\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm) (2016年3月30日)

1. 図や表，写真について

図や表，写真等は原稿末尾にまとめることはせず，それらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とする．本文とは別に鮮明な原稿を作成し，本文中にその挿入箇所を指示しておく，もしくは図表写真を縮小表示して挿入しておくこと（表1と図1を参照）．

図表の幅は，1段または2段のいずれかとし，両脇に余白が生じても文字を入れない．

図および表には，通し番号を付し，表の表題は表の上部に，図の表題は図の下部に記入すること．なお，図および表が一つの場合にも，図1または表1と記す．図表と文章本体との間には1行程度の空白を設けて区別を明確にすること．



1. 発行について
   1. 発行媒体について

　発行媒体は基本的に電子版のみとし，三重大学学術機関リポジトリに掲載する．ただし，次項に定める場合においてはこの限りでない．

* 1. 別刷りについて

　投稿者が別刷りを希望する場合は，対応することが可能である．ただし，別刷りにかかる金額は投稿者が負担すること．

* 1. カラー図版について

　投稿者が本文や図表にカラーを使用したい場合は対応することが可能である．

謝辞

　このテンプレートを作成するにあたり，学内紀要や学外論文誌等のフォーマットを参考にさせていただきました．関係者の皆様にはこころより感謝申し上げます．また，日頃よりお世話になっている教育推進・学生支援機構の先生方には，丁寧で迅速な査読をいただきました．こころより感謝申し上げます．

注

1)注の挿入例です．

2)注の挿入例です．

3)注の挿入例です．

参考文献

Barbara J Duch et al.(2001).*THE POWER OF PLOBLEM－BASED LEARNING A Practical “How To” for Teaching Undergraduate Courses in Any Discipline*, Stylus Publishing. ダッチ・B・Jほか(三重大学高等教育創造開発センター訳)(2016)『学生が変わる　プロブレム・ベースド・ラーニング実践法 学びを深めるアクティブ・ラーニングがキャンパスを変える』日本.

Barkley, E. F. (2010). *Student engagement techniques: A handbook for college professors*. San Francisco, CA: Jossey-Bass.

Barr, R. B., & Tagg, J. (1995). From teaching to learning: A new paradigm for undergraduate education. *Change, 27(6)*, 12-25

松下佳代 (2015)『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房.

中央教育審議会 (2012)『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて－生涯学び続け，主体的に考える力を育成する大学へ－(答申)』(http://www.mext.go.jp/b\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm) (2016年3月30日).

山本俊彦・三谷千尋 (2004)「子どもの学びを大切にした小学校体育授業における一考察」『三重大学教育学部附属教育実践総合センター紀要』24，155-164.

SUMMARY

English summary xxxxxxxx xxxx, x xxxx xxxxxxxx xx xxxx xx xxxxxx. xxxxxxxx xxxx, x xxxx xxxxxxxx xx xxxx xx xxxxxx. xxxxx xxxxxxxx xxxx, x xxxx xxxxxxxx xxxxxxxx xxxx, x xxxx xx xxxxxx. xxxxxxxx xx xxxx, x xxxx xxxxxxxx xx xxxx xx xxxxxx. xxxxxxxx xxxx, x xxxxxx xx xxxx xx.

KEYWORDS: ○○○○, ××××, △△△,□□□□, ○○○○

――――――――――――――――――――――――

† MIEDAI Manabu \* and DAIGAKU Mie \*2 : English Title（英文タイトル）

\* Faculty of ○○, Mie University 0-0-0 Kurimamachiyachou Tsushi, Mie, 000-0000 Japan

\*2 Center of Higher Education, Tsu University 0-0-0 Kurimamachiyachou Tsushi, Mie, 000-0000 Japan